

肌寒さの中でも桜の花も綺麗に咲き始め、日が長くなってきたスコットランドの美しさを日々感じて過ごしています。気づけばもう Fettes で残された時間は1タームだけとなり、時の流れの速さを痛感しています。今回のレポートでは主に受験のことや学習面と、生活面に分けて記載していきます。

1 受験と勉強

今学期は A レベルに向けたレッスンもすべて終わり授業では今までの復習を主に行いました。4科目取っているということもあり、覚えなければいけないことや、やることがすごく多く、発展数学は主に連日のテストで追われていました。イースター中に苦手部分を中心に復習できたので来学期も本番に向け固めていきたいと思っています。

大学からのオファーは、5つのうち4つ揃い（3つオファー）、1つの学校からの結果を待っています。先学期に行ったケンブリッジの結果は惜しくも不合格でしたが、自分がもともとやりたいコースが経済と国際社会政策（教育政策など）だった為、ロンドンの大学などの柔軟なコースで学ぶのがやはり良いのだと再認識できました。自分にできることはすべてやり、面接に悔いもなかったため、結果は結果でポジティブに捉え、行くことになった大学で精一杯興味ある分野の知見を深めていきたいです。大学によってオファーが来る時期が全く違い、結果が遅いのがストレスになるときもありますが、まだ来ていないということはチャンスがあるということだと自分に言い聞かせ、前向きでいることを忘れず過ごしています。

イースターは主に A レベルの勉強と IELTS 対策をしました。A レベルのオファーは、日本語が使えるということもあり、理系学部と比べるとすごく低いためその点ではあまりストレスに感じすぎずリラックスしながら勉強できたと思います。（UCL: AA, Durham: A*AA, Edinburgh: BB）逆に、オファーがそこまで高くないためどのくらい必死で勉強すれば良いのか分からず、モチベーションをあげることが大変な時もありました。それでもすべての科目で A* を取れるように計画的に取り組みました。IELTS は、文系科目のため必要なレベルが比較的高く、他の田崎財団の友達とスピーキング対策などをしました。全体的に日本の受験生のように死に物狂いでやるということではなく効率的にストレスなく勉強ができたと思います。

2 生活

今学期は学習面で忙しいところもありましたが、日本の受験生という基準からは考えられないほど音楽や友達との交流などをすることができ充実した楽しい生活を送りました。今学期は“Fettes 最後”の行事がほとんどで、一つ一つを終えるたびに楽しい気持ちはもちろんですが同時に少し恋しさを感じました。1月にはスコットランドの詩人ロバートバーンズの生誕日を祝うバーンズナイトがありました。バーンズナイトではフォーマルなドレスを着て仲の良い友達と長机に座ってスコットランド伝統の食事、ハギスを食べたり、生徒によ

るバグパイプの演奏を聴いたりしました。休日は息抜きに近くのカフェに行ったり、日本食を作ったりしました。2月のハーフタームはホストファミリーの家に行き、その近くのグラスゴー大学で日本語レッスンのアシスタントをしました。日本に興味のある学生と会話ができとても楽しかったですし、こんなにも多くの人が日本に興味を持っているのだなと嬉しく思いました。2月末に行われた音楽のコンクールでは今年も優勝することができとても嬉しかったです。3月初めには Spring concert があり、ヴァイオリン、オーボエ、そしてピアノの三重奏や、ジャズバンド、聖歌隊の合唱、オーケストラなど、計5グループで演奏させていただきました。自分の達成感や音楽の楽しさを十分満喫することができ、一緒に演奏した友達ともすごく仲が深まり良かったです。その2日後には、10キロのマラソンがありました。すごく過酷でしたが50分で終わることができ嬉しかったです。イースターホリデーは初めの1週間弱をロンドンで過ごし、大学見学をしました。田崎の同期や先輩にもお会いできとても刺激的で、行くことができ良かったです。その後はエジンバラのホストファミリーと過ごしました。ホストマザーがすごく親切で、日本食を一緒に作ってくれたり、勉強のことを気にかけてくださったりと、スコットランド最後の長期休暇を素敵なファミリーと過ごせて良かったです。休暇中も学校の友達と外出して息抜きもしながら A レベルの勉強に勤しむことができます。Fettes も終わりに近づくこの頃、自分がいかにも恵まれた環境に1年半いさせていただけだったかということ強く実感しています。大学に行くのも楽しみですが、Fettes の友達やエジンバラがすごく恋しくなる、と思わせてくれる周りの沢山の素敵な仲間たちと、Fettes の先生方、財団の方々に感謝の気持ちで一杯です。こんなにも楽しむことができた生活に有終の美を飾れるよう、来学期も最後まで勉強も行事も全力で楽しみます。